

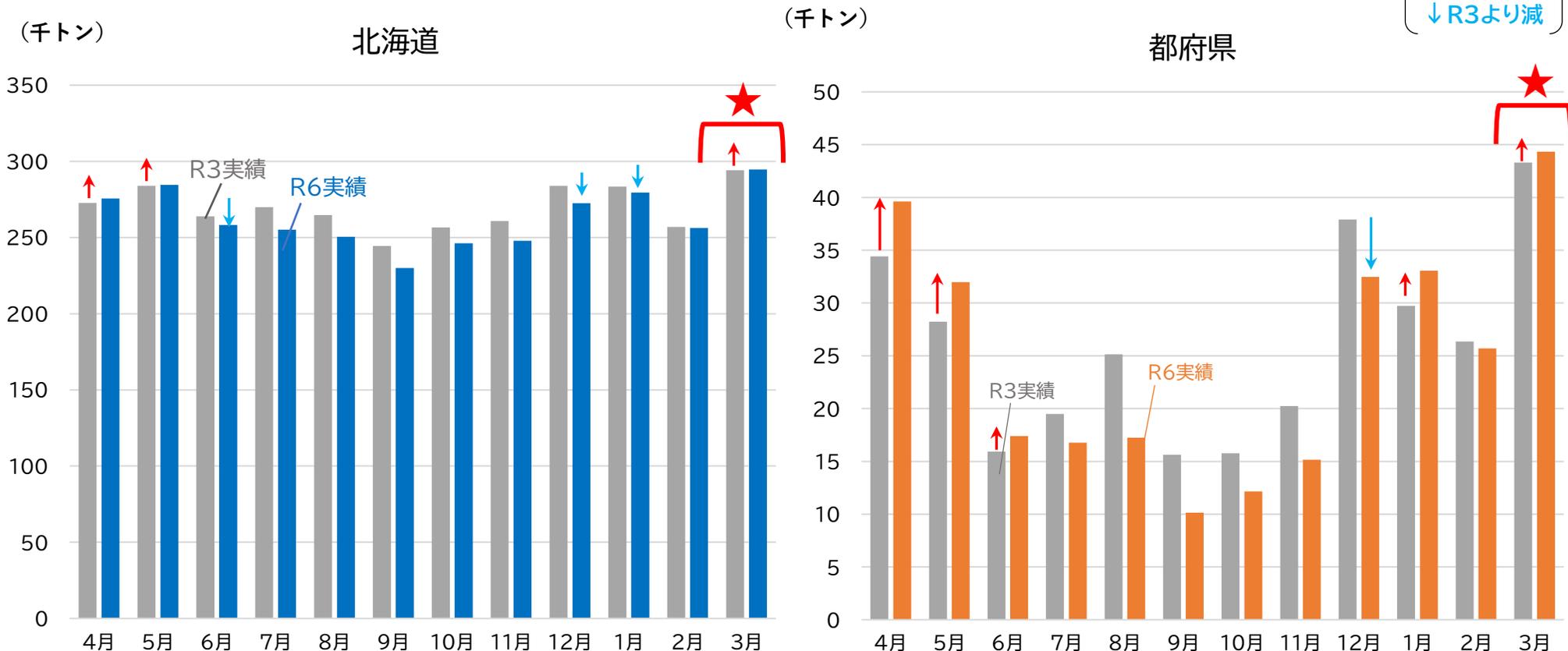
第10回生乳の需給等に係る情報交換会 説明資料

令和7年6月
農林水産省畜産局牛乳乳製品課

加工仕向け処理量（令和6年度）

- 令和6年度末は、北海道で令和3年度と同水準、都府県で令和3年度を上回る水準となり、加工キャパを超えるおそれもあった（★）。→6頁以降でも説明
- 令和7年度も引き続き、精度の高い見通しを全体で共有し、不測の事態が生じないように情報共有を行うとともに需給調整対応を充実すること（後述）が重要。

○加工向け処理量(R3年度・6年度)

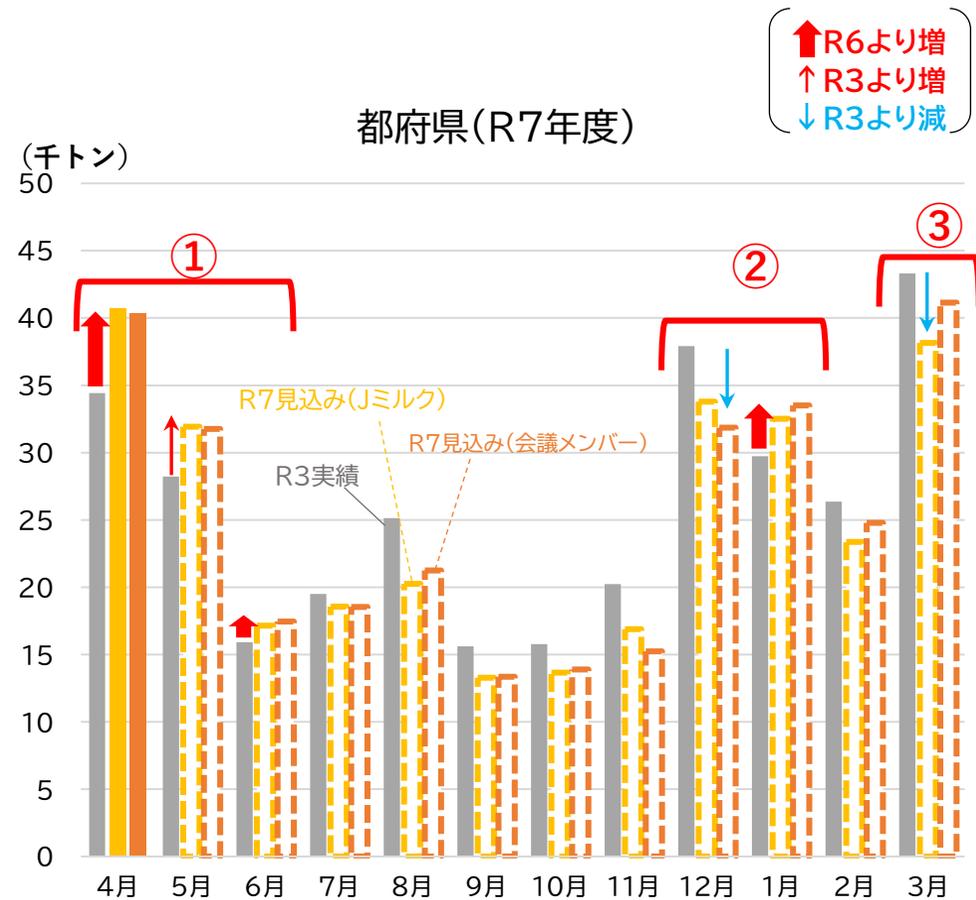
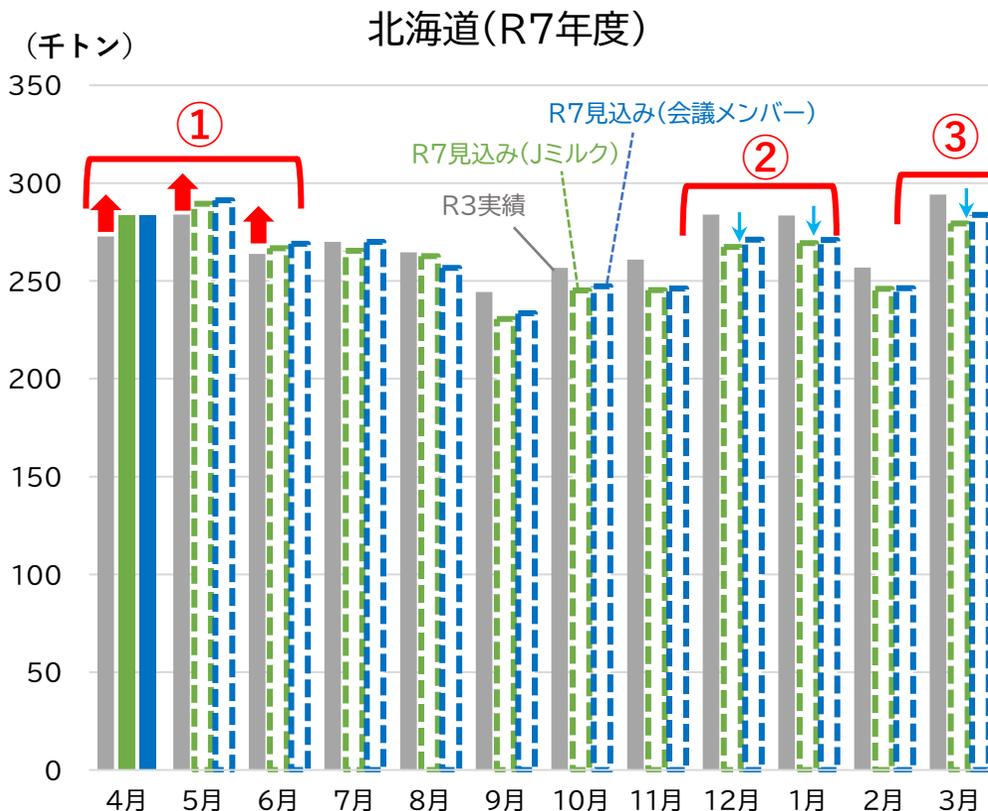


注：会議メンバーの加工仕向け処理量は、生乳取扱量－牛乳等向け販売量により算出

加工仕向け処理量の見通し（令和7年度）

- 令和7年4月～6月にかけては令和6年度よりも加工ラインがひっ迫。特に4月は令和6年度末の加工処理増加の影響が続いた。5月も通常GW明けは消費が回復すると言われていたところ引き続き低迷したことにより加工ラインがひっ迫（①）。
- 12月～3月は全体としては令和3年度を下回る見込みとなっているが、**1月は都府県で令和6年度よりもひっ迫感（②③）**。

加工向け処理量（R3年度・7年度）

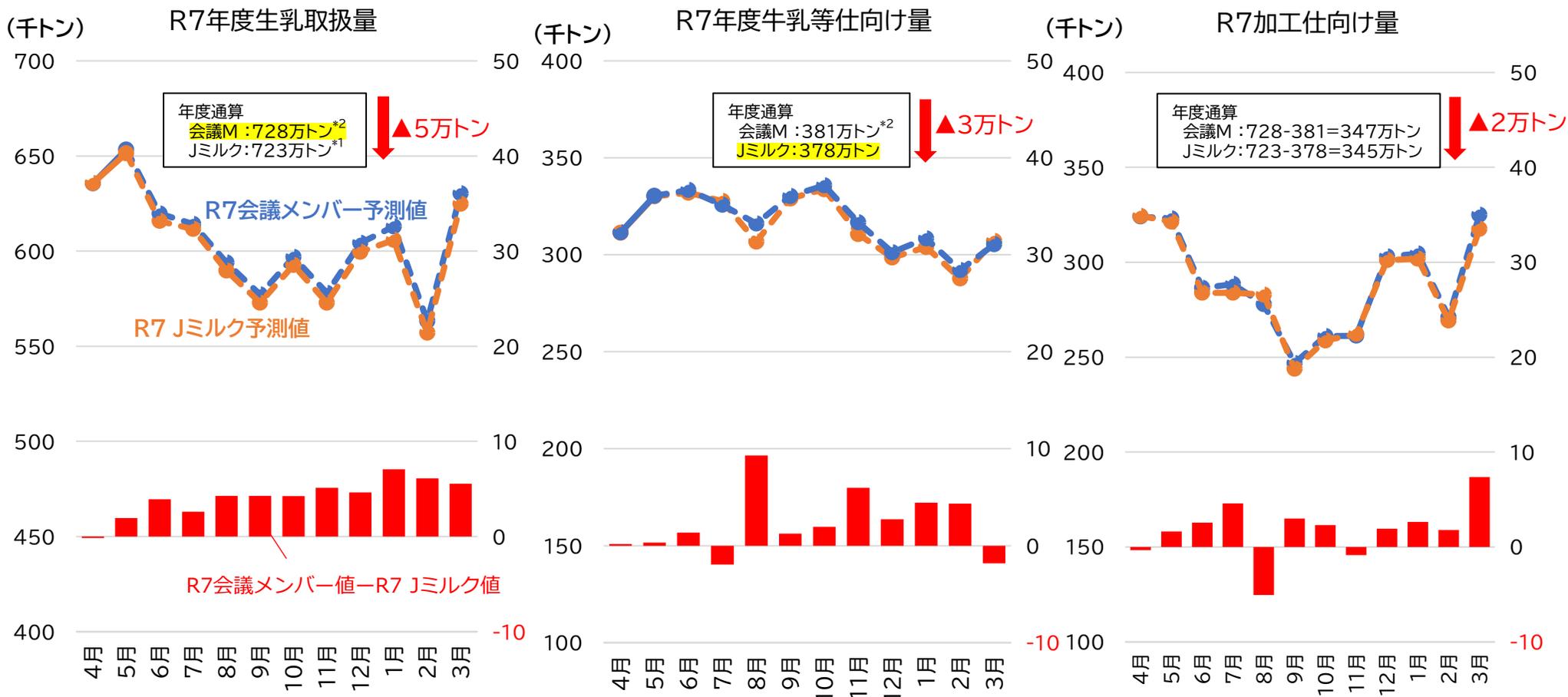


資料：Jミルク需給見通し（R7.1公表）、牛乳乳製品統計

注：会議メンバーの加工仕向け処理量は、生乳取扱量－牛乳等向け販売量により算出

Jミルク予測と会議メンバー見込み値との比較（令和7年度）

- **生乳取扱量及び牛乳等仕向け量の会議メンバーの見込み値（補正済）**は、Jミルクの予測値と比べて**年数万トン程度多い**。
- 仮に、生乳取扱量が会議メンバーの予測値（728万トン）と同水準、牛乳等仕向け量がJミルクの予測値と同水準（378万トン）となった場合、**加工仕向け量は現在のJミルクの予測値より年間で5万トンほど増え350万トン**となるため、令和3年度は下回るものの**月別には厳しい状況も起こり得る**。（参考：R3年度の加工仕向けは355万トン）

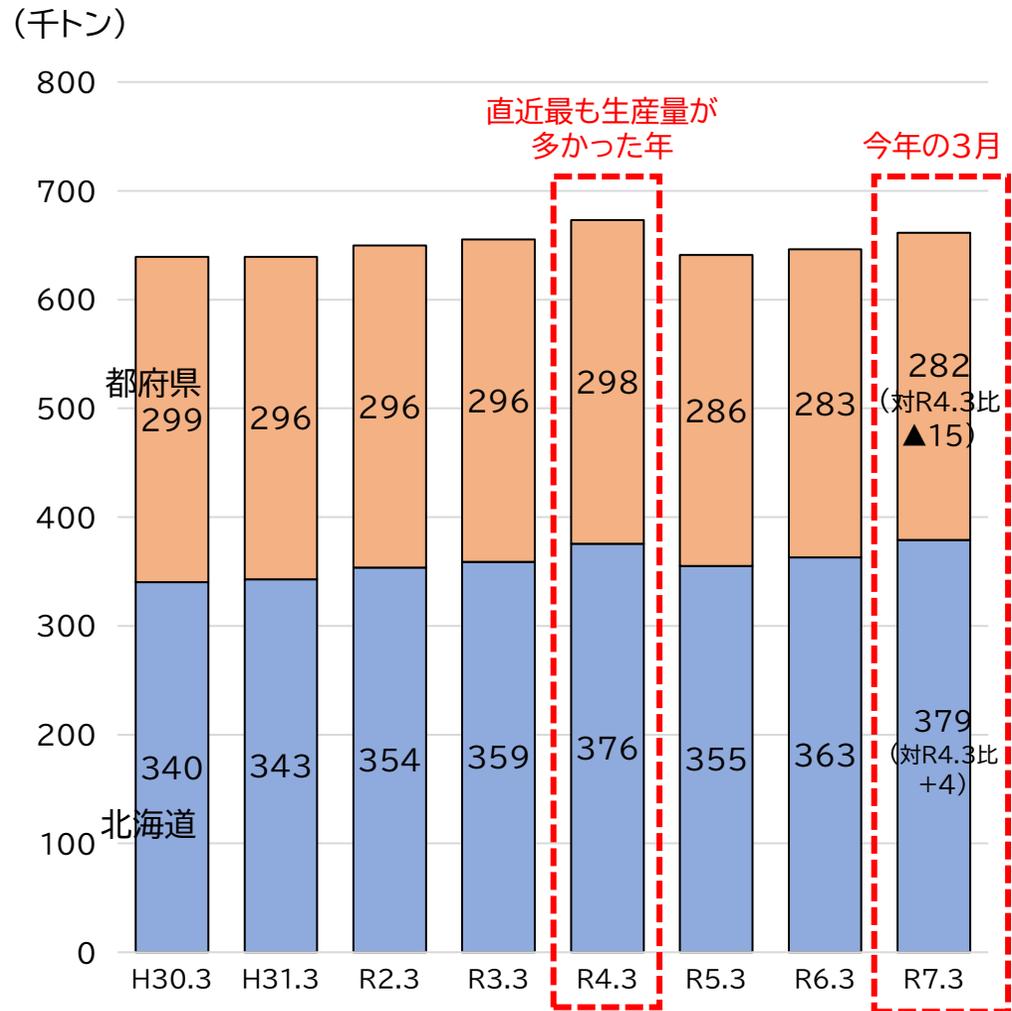


*1: Jミルクの生乳取扱量には、「飲用等向けのうちその他向け」と「自家消費量」が別途11万トンあり、723+11=734万トンが全生産量
 *2: 会議メンバーの業界寡占率(約98%)を考慮して補正

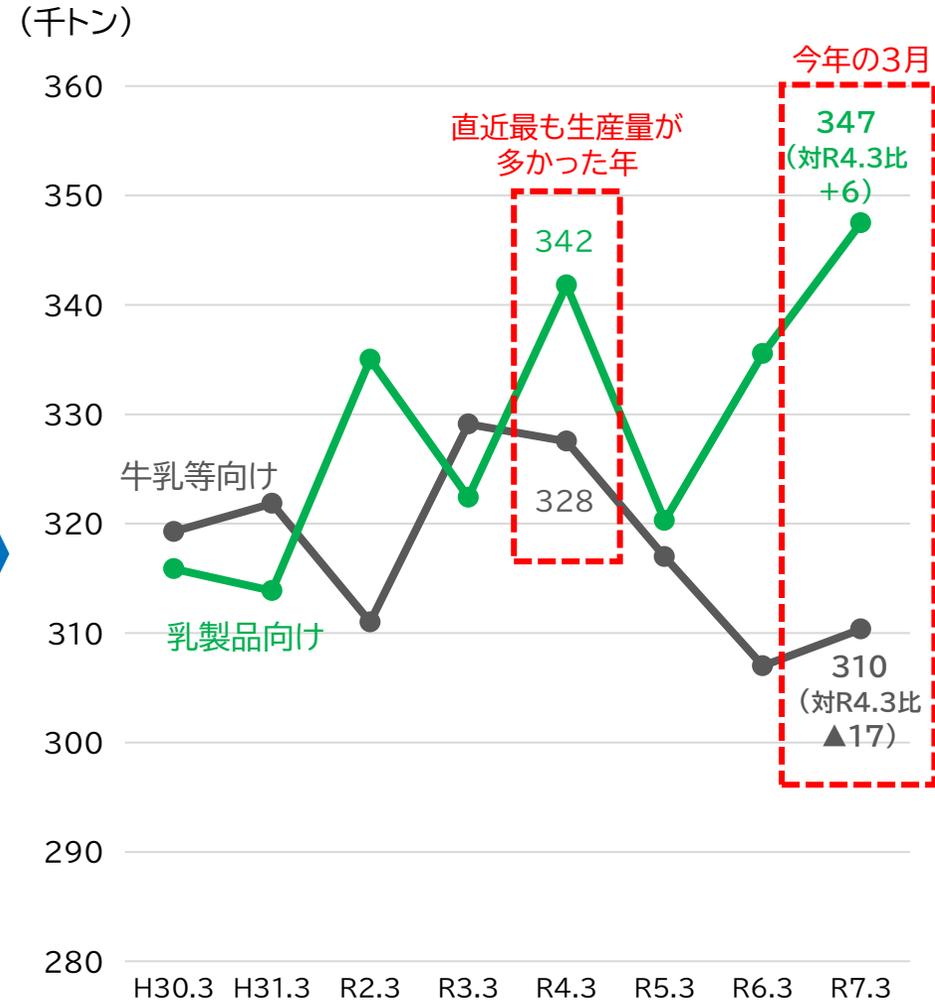
※R7見込みは会議メンバーのR7.5時点の見込み値
 ※R7Jミルク予測はR7.5時点の予測値

各年3月の生乳生産量と牛乳・乳製品仕向け量

生乳生産量



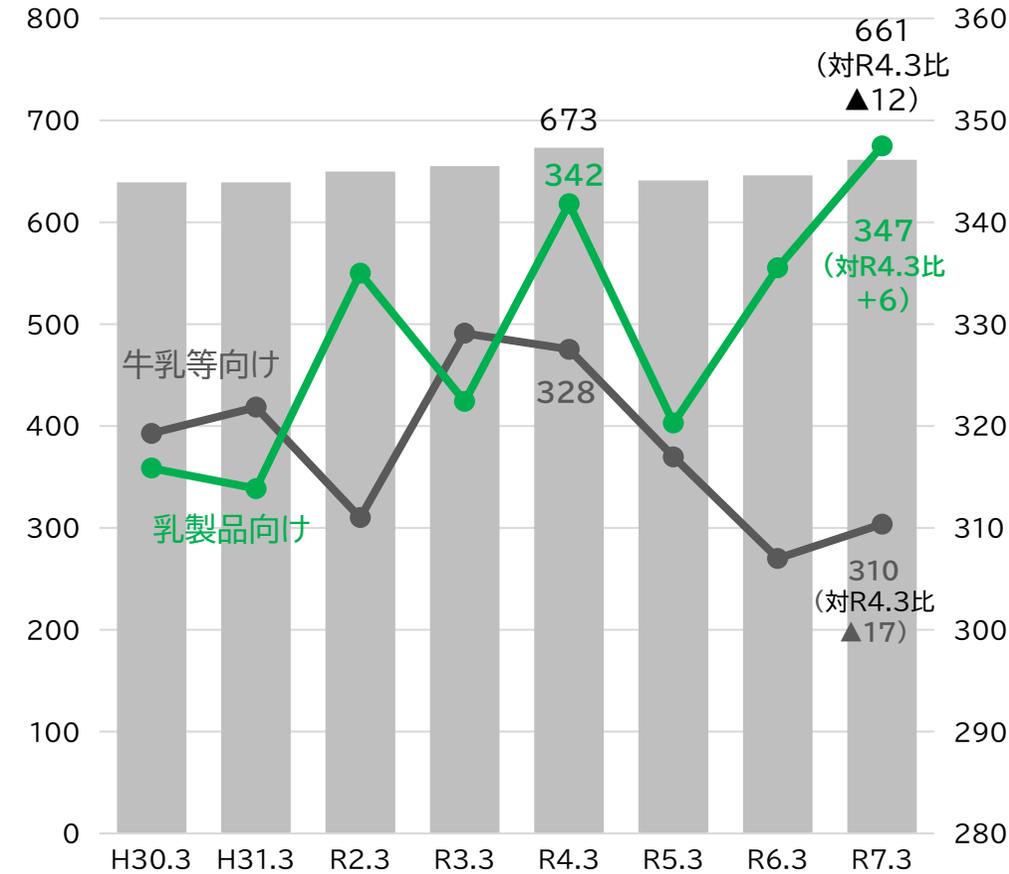
牛乳・乳製品仕向け量



出典:牛乳乳製品統計
注 : ()は対R4.3比

各年3月の生乳生産量と牛乳・乳製品仕向け量

(千トン)



出典:牛乳乳製品統計
注 : ()は対R4.3比

- 加工向けが増加する一方で、加工施設は老朽化や閉鎖等によって全国的にキャパシティが不足している状況
- このような中、飲用需要の減退により、牛乳等仕向け量は令和4年3月と比較して▲17千トン
- これに伴い、加工仕向け量は近年で最も加工の多かった令和4年3月を上回る水準となり、全国レベルで加工施設を圧迫

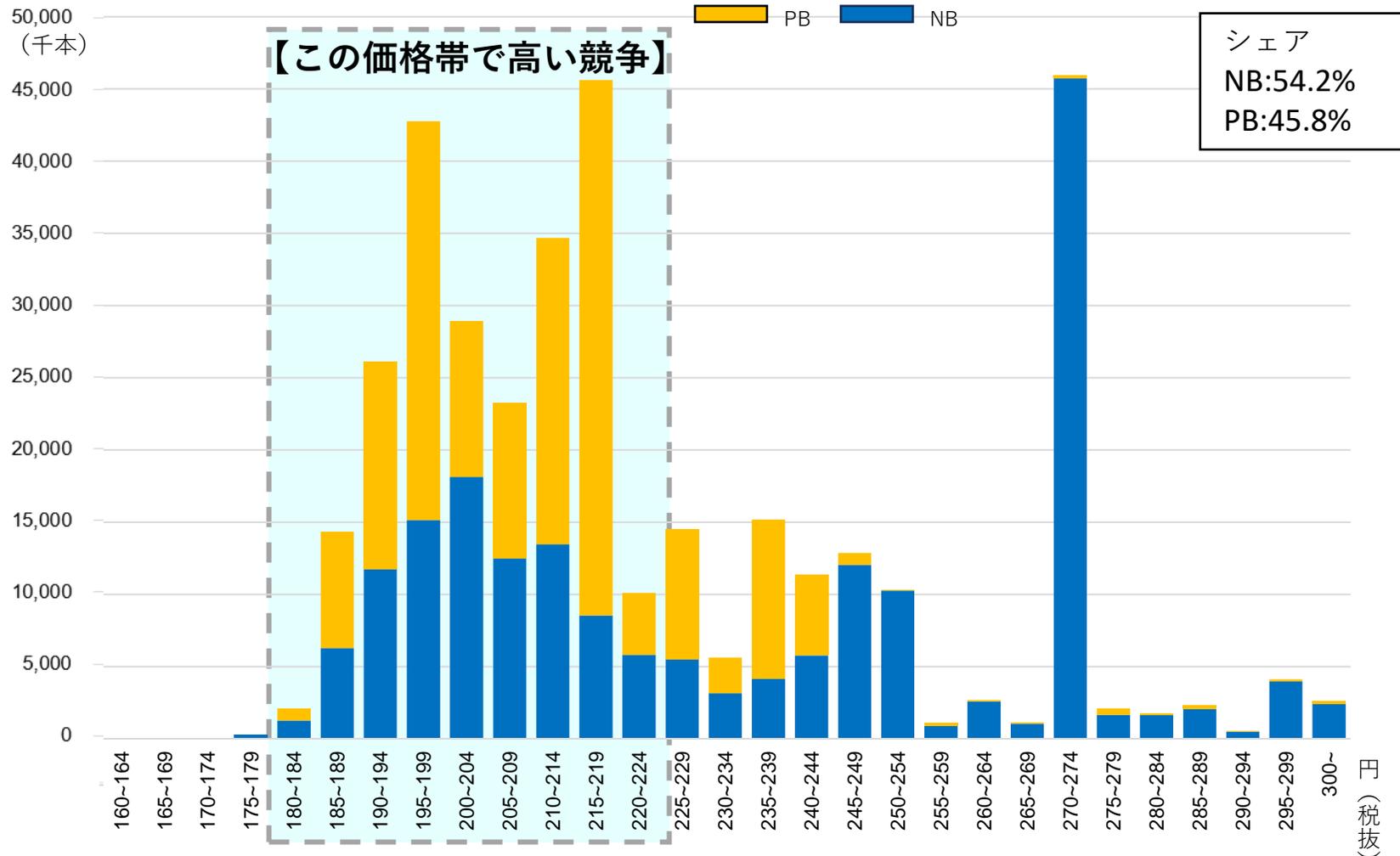
検討方向

- (1) 飲用需要を底上げするとともに、投げ売りや乳製品加工だけに頼らない不需要期の需給調整の方法を検討する必要があるのではないか
- (2) 生乳生産量を維持・拡大する中、飲用需要が増えなければ、加工施設の整備により加工キャパを拡充する必要があるのではないか

牛乳(成分無調整)の購入価格帯(税抜)

○ 180~220円(税抜)の価格帯で高い競争関係にある。

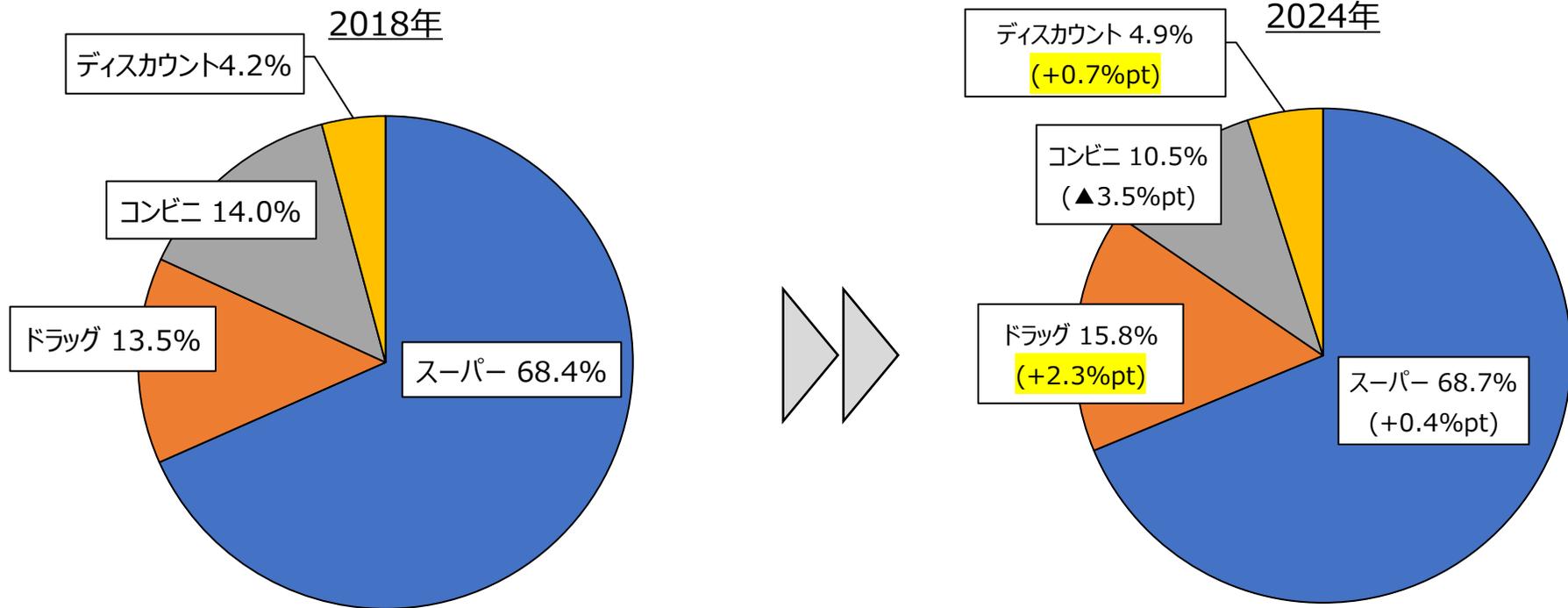
■ 価格帯別牛乳販売本数(令和6年4月~6月)



出典: インテージ SRI+ 2018年4~6月、2024年4~6月 平均販売価格・販売本数
注: 900mL~1Lの商品(特売や見切り販売を含む)、販売価格は税抜き

牛乳類の購入場所

- 直近(2024年)と5年前(2018年)の牛乳類の購入場所を比べると、コンビニが約4%減少し、ドラッグストアが約2%増加。ドラッグストアのシェアが小さいことを踏まえると、同業態の存在感が高まってきている。

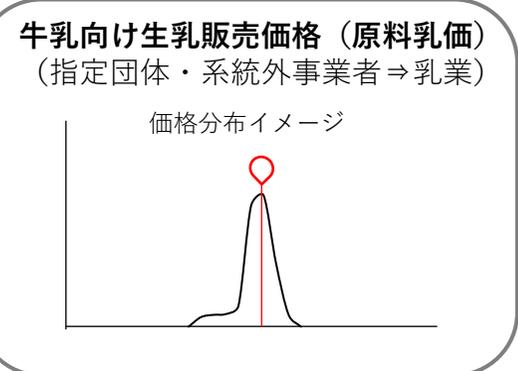
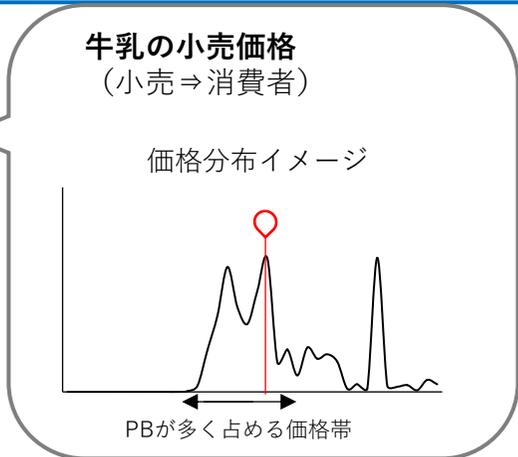
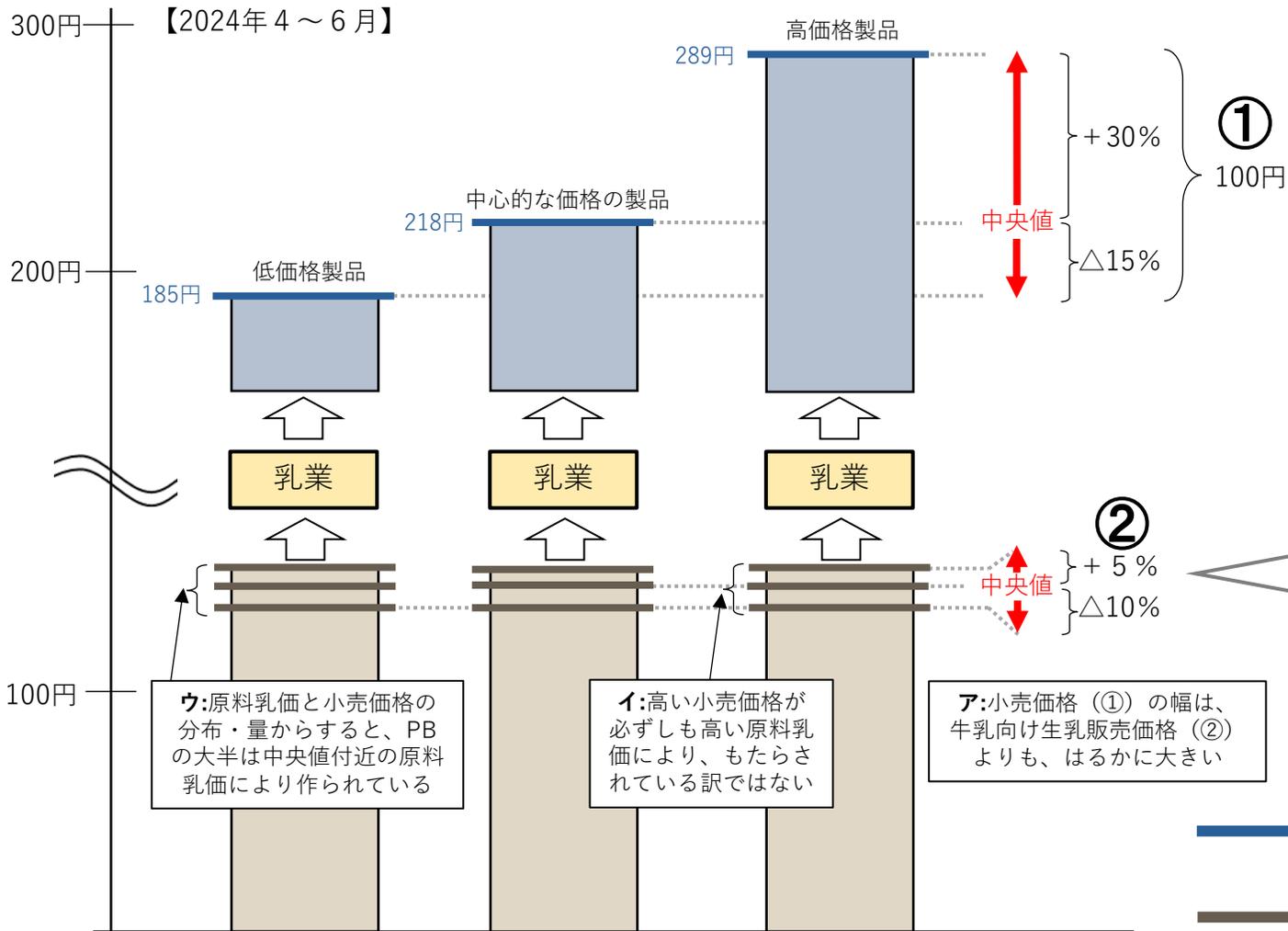


参考: (一社)Jミルク「牛乳乳製品に関する食生活動向調査」

(上記は主要4業態。これ以外には、生協(共同購入個配)、ネット注文宅配、生協(お店)、牛乳販売店、一般販売店、その他の店舗がある。重複回答あり。)

飲用牛乳(成分無調整)の価格構成(まとめ)

- 牛乳の小売価格(右図①)の幅は、牛乳向け生乳販売価格(原料乳価(右図②))の幅よりはるかに大きい(下図ア)。
- 低い原料乳価により高い小売価格が実現されている例も一般的(下図イ)。
- 原料乳価と小売価格の分布・量からすると、PBの大半は中央値の原料乳価により作られている(下図ウ)。
- ➡牛乳の小売価格の差は、原料乳価の差よりも、主に物流・販売費用等の差により生じている模様。
(※安売り牛乳は、安価な流通コスト(乳業と小売)が主な要因)
- ➡今後、改めて令和7年の状況を分析していく。



牛乳の小売価格
(小売⇒消費者)
出典: インテージ SRI+ 2024年4~6月 平均販売価格・販売本数

牛乳向け生乳販売価格
(指定団体・系統外事業者⇒乳業)
出典: 牛乳乳製品課調べ

出典: 牛乳乳製品課調べ (価格はいずれも税抜)

參考資料

生乳取扱量及び牛乳等仕向け量（令和6年度）

【R6年度生乳取扱量】

(千トン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
会議メンバー	621	641	603	592	580	566	591	576	602	618	569	641	7,200
(対前年同月比)	(101.3%)	(101.0%)	(99.7%)	(98.2%)	(100.7%)	(101.1%)	(101.4%)	(101.9%)	(101.4%)	(101.9%)	(98.2%)	(101.8%)	(100.7%)
(Jミルク予測との差 %pt)	(+0.2)	(±0.0)	(+0.1)	(▲0.1)	(+0.5)	(±0.0)	(±0.0)	(+0.1)	(▲0.7)	(+0.3)	(+1.8)	(+1.7)	(+0.3)
うち北海道	355	369	351	353	351	341	350	338	354	363	333	371	4,230
(対前年同月比)	(102.7%)	(101.8%)	(99.7%)	(99.5%)	(103.5%)	(103.7%)	(103.8%)	(103.8%)	(103.6%)	(104.2%)	(100.7%)	(103.6%)	(102.5%)
うち都府県	266	272	252	239	229	225	241	237	248	255	236	269	2,970
(対前年同月比)	(99.6%)	(100.1%)	(99.7%)	(96.4%)	(96.8%)	(97.2%)	(98.1%)	(99.3%)	(98.5%)	(98.7%)	(95.0%)	(99.4%)	(98.3%)
(参考) 牛乳乳製品統計	635	656	616	606	592	579	606	589	616	632	583	661	7,373

(参考) 生乳生産量：農林水産省「牛乳乳製品統計」

【R6年度牛乳等仕向け量】

(千トン)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
会議メンバー	306	325	328	320	312	326	332	313	296	305	287	302	3,753
(対前年同月比)	(99.5%)	(99.9%)	(101.5%)	(98.1%)	(100.5%)	(99.8%)	(101.9%)	(102.7%)	(101.5%)	(101.2%)	(98.6%)	(101.4%)	(100.5%)
うち道外移出量	34	38	46	49	53	62	55	43	37	39	34	32	521
(対前年同月比)	(110.8%)	(100.8%)	(102.3%)	(97.9%)	(111.8%)	(103.8%)	(107.3%)	(110.8%)	(107.4%)	(108.7%)	(107.9%)	(115.1%)	(106.5%)
(参考) 牛乳乳製品統計 (牛乳等向け処理量)	311	330	331	326	315	331	340	319	304	311	293	310	3,821
うち道外移出量	33	38	45	51	52	63	57	44	38	39	35	34	531

(参考) 生乳生産量・データ：農林水産省「牛乳乳製品統計」

(参考) Jミルク予測：2024年度、2025年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2025年1月31日公表）

生乳取扱量の見通し（令和7年度）

【R7年度生乳取扱量】

（千トン）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
Jミルク予測（生乳生産量）	645	661	625	620	598	581	601	580	607	615	566	637	7,335
（対前年同月比）	(101.5%)	(100.8%)	(101.5%)	(102.2%)	(101.1%)	(100.3%)	(99.1%)	(98.5%)	(98.5%)	(97.2%)	(97.0%)	(96.3%)	(99.5%)
うち北海道	366	380	366	370	359	345	353	339	354	357	327	366	4,282
（対前年同月比）	(102.9%)	(102.4%)	(103.9%)	(104.1%)	(101.9%)	(100.4%)	(99.7%)	(99.4%)	(99.2%)	(97.6%)	(97.1%)	(96.4%)	(100.4%)
うち都府県	279	281	260	250	239	235	247	241	253	258	239	271	3,053
（対前年同月比）	(99.7%)	(98.7%)	(98.3%)	(99.7%)	(99.8%)	(100.1%)	(98.2%)	(97.3%)	(97.5%)	(96.7%)	(96.7%)	(96.1%)	(98.2%)
会議メンバー	629	647	613	608	588	571	590	572	598	607	557	624	7,203
（対前年同月比）	(101.4%)	(100.8%)	(101.6%)	(102.6%)	(101.3%)	(100.8%)	(99.9%)	(99.3%)	(99.5%)	(98.2%)	(97.9%)	(97.4%)	(100.1%)
（Jミルク予測との差 %pt）	(▲0.2)	(+0.1)	(+0.1)	(+0.4)	(+0.2)	(+0.5)	(+0.8)	(+0.8)	(+1.0)	(+1.0)	(+0.9)	(+1.1)	(+0.6)
うち北海道	363	378	363	368	358	346	352	338	353	356	325	361	4,260
（対前年同月比）	(102.3%)	(102.2%)	(103.4%)	(104.4%)	(102.0%)	(101.3%)	(100.5%)	(99.8%)	(99.8%)	(98.0%)	(97.6%)	(97.2%)	(100.7%)
（Jミルク予測との差 %pt）	(▲0.6)	(▲0.2)	(▲0.4)	(+0.3)	(+0.0)	(+0.9)	(+0.7)	(+0.4)	(+0.7)	(+0.4)	(+0.5)	(+0.7)	(+0.3)
うち都府県	266	269	250	240	229	225	238	234	245	251	232	263	2,943
（対前年同月比）	(100.1%)	(99.0%)	(99.1%)	(100.1%)	(100.3%)	(100.1%)	(99.1%)	(98.5%)	(98.9%)	(98.4%)	(98.3%)	(97.8%)	(99.1%)
（Jミルク予測との差 %pt）	(+0.3)	(+0.3)	(+0.8)	(+0.4)	(+0.5)	(+0.0)	(+0.9)	(+1.2)	(+1.4)	(+1.8)	(+1.5)	(+1.7)	(+0.9)

（参考）Jミルク予測：2025年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2025年5月30日公表）

牛乳等仕向け量の見通し（令和7年度）

【R7年度牛乳等仕向量】

（千トン）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
②Jミルク予測	311	330	332	328	307	329	334	311	299	304	288	307	3,779
（対前年同月比）	(100.1%)	(100.2%)	(100.3%)	(100.5%)	(97.3%)	(99.3%)	(98.3%)	(97.5%)	(98.2%)	(97.7%)	(98.3%)	(99.0%)	(98.9%)
うち道外移出量	36	42	52	56	49	64	58	45	40	40	36	36	553
（対前年同月比）	(109.0%)	(110.3%)	(113.6%)	(108.6%)	(93.0%)	(101.0%)	(101.8%)	(102.0%)	(105.3%)	(103.0%)	(100.4%)	(105.8%)	(104.1%)
会議メンバー	305	324	327	319	310	324	329	310	295	302	286	299	3,731
（対前年同月比）	(99.9%)	(99.7%)	(99.7%)	(99.7%)	(99.2%)	(99.3%)	(99.0%)	(99.2%)	(99.6%)	(99.0%)	(99.6%)	(99.2%)	(99.4%)
（Jミルク予測との差 %pt）	(▲0.2)	(▲0.5)	(▲0.6)	(▲0.8)	(+1.9)	(0.0)	(+0.7)	(+1.7)	(+1.4)	(+1.2)	(+1.3)	(+0.2)	(+0.5)
うち道外移出量	35	39	48	50	53	63	55	44	38	39	36	32	531
（対前年同月比）	(103.0%)	(103.5%)	(102.2%)	(101.5%)	(101.3%)	(101.2%)	(101.3%)	(102.8%)	(102.7%)	(101.8%)	(104.0%)	(99.7%)	(102.0%)
（Jミルク予測との差 %pt）	(▲6.0)	(▲6.7)	(▲11.5)	(▲7.1)	(+8.3)	(+0.2)	(▲0.5)	(+0.8)	(▲2.7)	(▲1.2)	(+3.6)	(▲6.2)	(▲2.1)

（参考）Jミルク予測：2025年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2025年5月30日公表）